

# 文化庁

45. 5

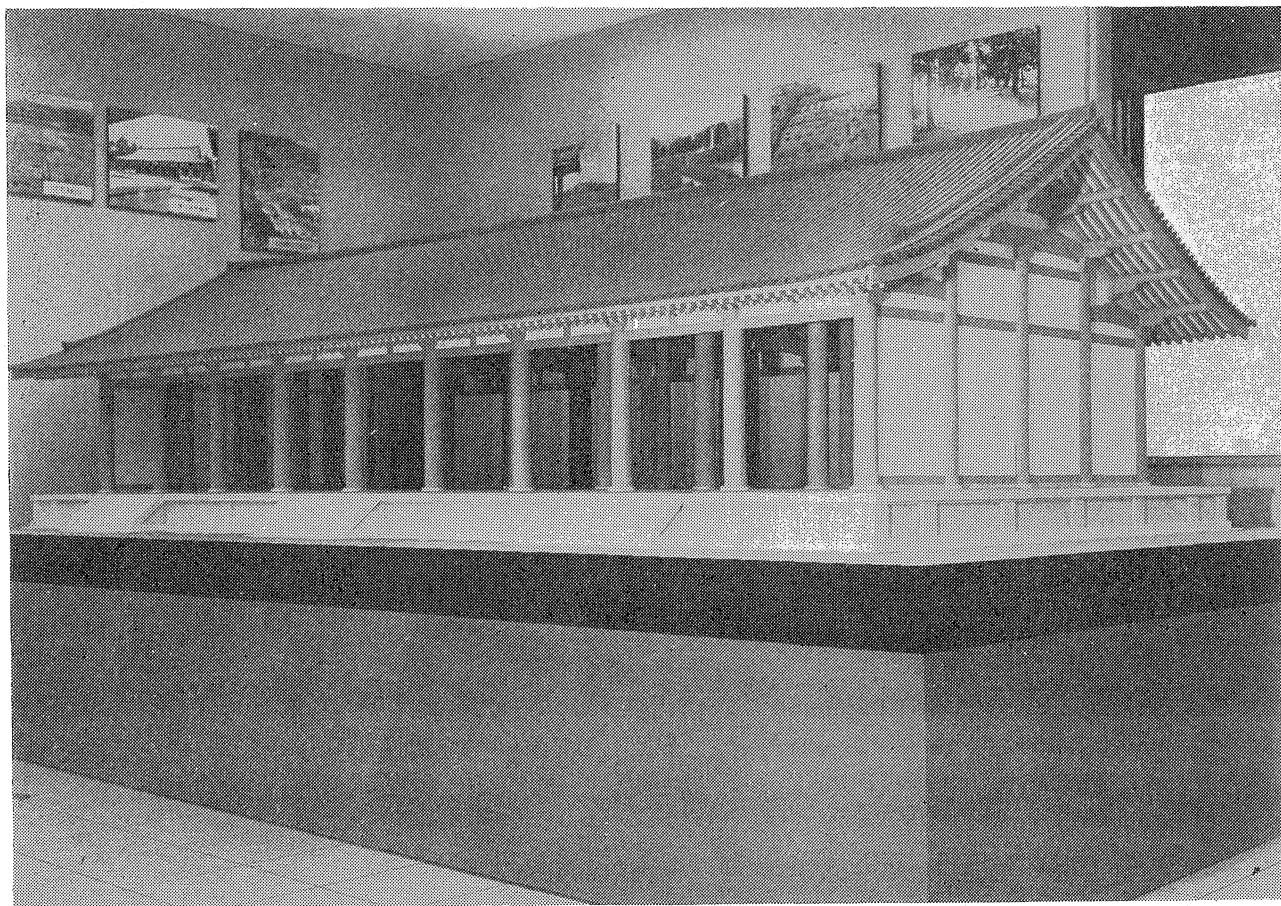
〈月報〉

昭和45年 5月15日 発行

編集 文化庁長官官房庶務課  
発行 東京都千代田区霞が関3-2-2  
電話代表 (581) 4211  
郵便番号 100

—〈第21号〉—

(題字=今日出海 文化庁長官)



〈平城宮朝集殿模型〉

- もくじ
- ▽新施設成る……………2  
フィルムセンター  
東京国立文化財研究所別館  
平城宮資料館
  - ▽日本芸術院賞受賞者決まる 3
  - ▽新著作権法成立……………4
  - ▽第九回県展選抜展開く……………5
  - ▽重要無形文化財保持者  
認定書交付式……………6
  - ▽重要無形文化財後継者  
養成施設設立……………6
  - ▽平城宮朝集殿模型完成……………6
  - ▽勝連城跡の発掘調査終わる 7
  - ▽文化財愛護モデル地区指定 8
  - ▽文化協定締結国との文化  
交流……………9
  - ▽春の勲章受賞者・受杯者  
決まる……………9
  - ▽万国博美術館(出陳美  
術品抄)その三……………10
  - ▽国立博物館、美術館日より 11
  - ▽随筆……………12
  - ▽地方日より……………13
  - ▽モデル地区日より……………15
  - ▽文化庁日誌、人事異動……………16
  - ▽国立劇場六月公演……………16

沖縄の本土復帰のための日本政府の体制も徐々としてではあったが、しだいに整えられてきている。

復帰前に準備しなければならぬこと、復帰の際に措置すべきこと、復帰後の振興策としてなすべきことはそれぞれ何であるか、各省庁とも検討を急いでいる。そうした作業の一環として、私も文部省の他部局の人々と三月下旬、六日間ほど沖縄を調査した。

短い期間ではあったが、沖縄の重要文化財や史跡などを実際に見ることができた。その間沖縄の文化財保護に当たっている人たちが、地理的歴史的に特殊な沖縄に生まれた文化財に非常な誇りと愛着を持っていることを知るとともに、本土復帰が文化財保護行政を後退させはしないかと危惧していることを感じた。

佐藤・ニクソン会談で、沖縄はいわゆる核ぬき、本土並みで昭和四十七年に返還されることが決まったが、沖縄の文化財関係者は「本土並み」ということが、ただ、単に人口や経済力から

だけの基準でみられ、文化財的見地からなされないのではないかと恐れていた。戦前国宝の数から見ると沖縄は四十七都道府県のうち十八番目くらいであったという。

一般に沖縄のおくれが先入観念のようになっているきらいがあるが、今回の文部省各担当官の調査でも、学校給食などのように沖縄のほうがととのっているのではないかとという事例がいくつかあった。

### 本土並みということば

石川 二郎

私たちは、機械的事務的に沖縄を本土並みにするのではなく、沖縄の人々の声を謙虚にきいて、沖縄の人々の誇りとしているものをたいせつに、その願望や本土政府への期待を裏切らないようにすることがたいせつであると感じた。

それが大東亜戦争を戦い抜き、四半世紀以上も米国統治の下にあった沖縄の人々に対する本土政府の責務だと思ふ。本土並みという言葉に奢ってはいけなと思う。

(文化庁長官官房庶務課長)